

# 地域の再生に貢献できる人材育成の取組

## 大阪大学

千里ニュータウンの再生をめざしたまちづくりに総合的に貢献でき、市民に信頼される人材の育成を目的とした取組。

### (概要)

大阪大学大学院学生と社会人を対象に、既成市街地の活性化をめざしたまちづくりに総合的に貢献でき、市民に信頼される人材(「リノベーションまちづくりデザイナー」という)の育成を目的に、教員に加え、地域社会の人的資源(自治体職員・コンサルタントなどの専門家ならびに市民団体の構成員、一般住民など)を活用した融合教育プログラムを2005年より実施。

### (取組事例:1) 団地の活性化(佐竹台) (2010年)

大阪府営千里佐竹台住宅の建て替えに際し設置された佐竹台子育て交流室(おひさまルーム)の活用の検討を通して、地域交流の場のあり方をデザインする社会実験を行った。

学生による議論を通して、おひさまルームのデザインを提案、クッション・ちょうちん・えほんひろばを制作し、部屋を開放・展示、「『ゆめいろ』迷路で遊ぼう」の開催等のプログラムを企画・実施した。



佐竹台の写真を使って多世代交流をうながすワークショップの開催

### (取組事例:2) 近隣センターの再生(津雲台) (2011年)

津雲台(A住区)は千里ニュータウンの近隣住区の中で最も早く計画に着手された住区である。少子高齢化や、駅前等における大型商業施設の出現により、近隣センターは衰退の一途をたどっており、新しい時代における近隣センターの機能構成の見直しを行い、千里ニュータウンにおける再生モデルとするべく取り組みを行った。

地権者(近隣センター商店組合)の人々が新たな近隣センターの役割や事業の仕組みまで含めたイメージを共有することが必要と考え、人々がまちづくりに関する議論や知識をたくわえていける「共同オフィス」を提案した。

授業終了後も、受講生の有志が「共同オフィス」の有効性を実践し証明するため、近隣センターの一角に自分たち(大学)の「サテライト」を立ち上げる予定。



# 地域づくりの中心となる学生を育成する取組

## 熊本県立大学 「もやいすと(地域づくりのキーパーソン)育成」

熊本県立大学の人材養成の目的を表す概念「もやいすと」(熊本の自然や文化、社会に対する理解に立ち、専門の枠を超えて、自ら課題を認識・発見し、“地域づくりのキーパーソン”として地域の人々と協働して課題の解決に取り組む人材を育成)。

### (プログラム概要)

人材育成に向けて、各学部の専門教育とは別に「初年次教育(学士課程)における動機付け教育」、「学内外の諸活動」、「地域と連携して行う教育・研究活動」という大学の特色を凝縮した学生向けの人材養成プログラムを展開。プログラムには、それぞれ到達目標を設定しており、到達目標に応じた教育研究指導を行い、客観的な方法による達成度の測定及び評価を行う。

### 「もやいすとジュニア」

初年次教育の観点から、地域への理解を深めるとともに共生の精神、ボランティア精神に富むリーダー養成を目的に全学共通科目として教育活動を行う。

### 「もやいすとシニア」

学内外の諸活動の運営を主体的に行う人材の育成を目的に、熊本県立大学後援会や学生クラブと連携し、様々な自主活動に関する情報提供を行い、共同自主研究活動、「もやいすとジュニア」教育活動、インターンシップ、ボランティアなどへの参加を促進する。学生は自ら主体的にそれらの取組に参加し、企画・立案や運営の仕方を学び、協働の精神を体得する。

### 「もやいすとスーパー」

学生や大学院生がグループや個人で行う教育・研究活動の中から地域社会への貢献度が高い活動を選出し、大学を代表する活動として紹介するための報告会を実施する。報告会での外部有識者を含む委員会による評価を経て、企画・運営を行った学生・大学院生を「もやいすとスーパー」として認定する。「もやいすとスーパー」の候補者は、年度末に各学部・各研究科の推薦をもって選出する。

### 「もやいすとスーパー」として認定された活動(平成23年2月報告)

- ・熊本県立大学における地域日本語教室の実施...在留外国人への日本語指導、交流
- ・熊本県における多文化共生社会の充実を目指して...外国人との共生社会確立への活動
- ・KumaScape(くますけーぷ)...ウェブ上での熊本観光案内
- ・ヤマネ・ネットワークの活動を通じた地域貢献...ヤマネの生態調査と情報発信
- ・山都町矢部地区に残る方言採集...無形文化財としての方言の音声保存活動
- ・「食育の日」推進プロジェクト...食関連団体との協力と本学の食健康教育の拠点



【地域への理解を深める座学(阿蘇市)】



【現場での体験活動(阿蘇郡高森町)】

# 学生のボランティア活動を評価している取組

学生が大学等の内外においてボランティア活動を行うことは、将来の社会の担い手となる学生の円滑な社会への移行促進の観点からも意義がある等の理由で、**ボランティア活動を単位認定している取組**。

## 明治大学 「震災被災地への支援」

### (概要)

東日本大震災関連のボランティア活動に従事した学生に単位を認定する学部間共通総合講座『東日本大震災に伴うボランティア実習』を開講。

学生のボランティア参加を後押しして被災地支援につなげるとともに、**ボランティア活動を通じて学生の自主性や社会性を育む**。

### (単位認定方法)

実際のボランティア活動のほか、事前の講義受講 活動報告書の作成・提出 報告会での発表などを含めて計60時間以上の実習に従事した学生に2単位を認定。

履修実績:「前後期各1科目開設,約70名が履修」

### (経費負担)

ボランティア活動に参加する学生の経済的負担を軽減し、ボランティア活動が継続的に行われることを目的に、ボランティア活動に伴う交通費及び宿泊費の一部を助成

### (その他)

学生の安全面も考慮し、後方支援が活動の中心。

NPOの協力の下、首都圏でも被害の大きかった千葉県浦安市にボランティア拠点を構え、学生を同市や東北の被災地へ派遣。  
大船渡市、郡山市、浦安市等と活動内容を協議。



ボランティア実習の事前説明会に臨む学生たち

## 東京国際大学 「ボランティア単位制度」

### (概要)

5学部が、それぞれの学部の特色を生かしたボランティア活動を単位として認定している。商学部「ボランティア活動」(1単位)、経済学部「国際ボランティア」(1または2単位)、言語コミュニケーション学部「サービスマーケティング」(2単位)、国際関係学部「海外ボランティア実習」(2単位)、人間社会学部「ボランティアワーク」(2単位)である。

### (単位認定方法)

原則として、学生に事前に主催団体の募集要領や活動内容等の資料を提出させ、学部が審査する。事前準備及び活動時間、終了後の報告やレポート作成等、必要な学修等を考慮して単位の認定をしている。

例えば、国際関係学部の「海外ボランティア実習」では、現地での実習活動の他、事前指導、活動報告、研究発表等を一体化させ単位の認定としている。

### (ボランティア活動の代表的な取組)

商学部 平地林保全のための落葉掃き活動

経済学部 海外でのボランティア活動

言語コミュニケーション学部 英語での  
川越観光ガイド

国際関係学部 海外におけるNGO等の活動支援

人間社会学部 聴覚障がい学生に対する

ノートテイク、小・中学生の不登校予防活動  
(スチューデントサポーター等)



スチューデントサポーター

# 被災地を支援する復旧・復興ボランティアの取組

平成23年3月11日に発生した東日本大震災による被災地の復旧・復興活動を支援するため、全国各地の高等教育機関による支援活動が行われている。

## 東海大学 「仮設公民館を建設」

東海大学工学部建築学科の学生と教職員が中心となり、ヒノキの間伐材を組み合わせ短期間で建設可能な応急建築物(約26m<sup>2</sup>、木造平屋)を開発。津波で流失した岩手県大船渡市三陸町越喜来泊地区から要請を受け、地域住民と協働し仮設公民館を建設した。屋根にはソーラーパネルが設置されており、資源循環型社会に対応した設計となっている。



仮設公民館が完成

## 同志社大学 「障がいのある学生への支援」

同志社大学では、5/6(金)より被災した大学に在籍する聴覚障害学生への支援を開始。モバイル型遠隔情報保障システムを使用。宮城教育大学での講義の音声を電話で聞き取り、PC入力で文字化したものを、インターネットを利用して送信。聴覚障害学生は、手元にあるスマートフォンで確認した。聴覚障害学生を支援するPEPNeT Japanの呼びかけで実現。



パソコン通約を行う学生

## 東北歯科技工専門学校 「入れ歯等の洗浄」

東北歯科技工専門学校(宮城県)では、長期の避難所生活を送る高齢者の肺炎感染予防の一策として重要な入れ歯のメンテナンスのため、学生が入れ歯ケースと洗浄剤の詰合せを作成し避難所に送付。



詰め合わせセットを作成

## ホンダテクニカルカレッジ関東 「車両等の修理」

ホンダテクニカルカレッジ関東(埼玉県)では、宮城県石巻市、気仙沼市において、一級自動車整備研究科の学生が休日を利用し、全校から集まった募金を資金として、3月より月2回のペースで、自分たちの持ち味を活かし、海水に浸かってしまった車やバイクの修理、自転車のパンク修理などを実施。



自転車の整備を行う

# 隣接大学の連携により地域社会に貢献する取組

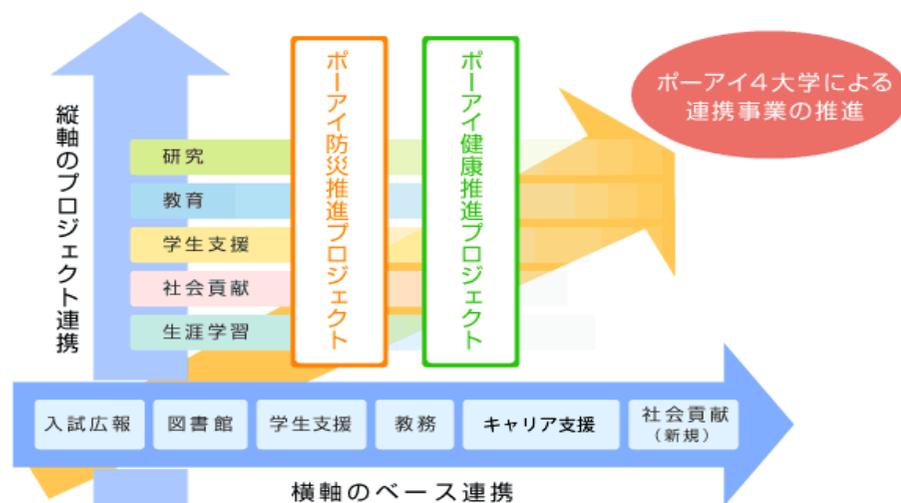
神戸学院大学、神戸女子大学、兵庫医療大学、神戸女子短期大学「ポーアイ4大学による連携事業」

神戸市中央区のポートアイランドにキャンパスを置く4大学(ポーアイ4大学)が、隣接しているという立地条件と各大学の特色を活かして研究・教育活動で連携するとともに、地域・企業・自治体などとも交流・連携をし、地域社会に貢献。

## < 事業概要 >

(横軸): 連携のベースとなる「入試広報」「図書館」「学生支援」「教務」「キャリア支援」「社会貢献」  
 (縦軸): 4大学共通の課題、地域社会からの要請に沿ったプロジェクト。

大学の使命である「研究」「教育」「学生支援」「社会貢献」「生涯学習」の各フェイズにおいて、有効に機能していくことをめざし、「ポーアイ防災推進プロジェクト」と「ポーアイ健康推進プロジェクト」の2つのプロジェクトにより、事業を実施。



## < 活動内容 > 地域連携を中心としたプログラム

### ポーアイ安全・安心ステーション(ポーアイ防災推進プロジェクト)

4大学が連携し、地域の安全・安心プログラムを運営。神戸は、阪神・淡路大震災の経験を通じて特に災害への危機管理意識の高い地域であるが、取組を継続し次世代への継承を図る。

#### (活動例)

- ・学生による「ポーアイ安全・安心見回り隊」の活動
- ・地域消防団活動への参画(地域交流事業)
- ・総合防災訓練の実施
- ・安全・安心・社会貢献をテーマとした講演会 等



### ポーアイ健康・生活ステーション(ポーアイ健康推進プロジェクト)

4大学が連携し、地域の健康・生活支援プログラムを運営。生活の質を維持・向上していくための専門知識を提供するとともに、市民の経験に基づく知恵を交流の中で紹介し、相互教育の展開を図る。

#### (活動例)

- ・学生による「ポーアイ健康・生活見守り隊」の活動
- ・「健康・生活支援システム研究会」
- ・医療に関する公開講座の開催(健康増進事業)、個別健康相談の開催 等
- ・介護支援、子育て支援プログラム



# 高齢化等が進む地域の活性化に向けた取組

大東文化大学 「みらいネット高島平」

大学が立地する高島平地域と連携し、**大学・学生・地域住民が協力し、都市環境の再生及び教育活動を実施。**

(課題)

高齢化、建物の老朽化、団地の空き室(空洞化)が進む高島平地域(かつての「ニュータウン」が抱える課題)

住民と大学が協力し合って“大学・地域連携による、高島平地域の魅力創出と再活性化”を図る。

(学生入居プログラム + コミュニティ・カフェ運営)

大学が高島平団地の賃貸物件を一括して借り上げて学生に割安で住居を提供し、学生はその対価として地域住民に対する**ボランティア活動を毎月一定時間行うことで**、地域の活性化に供する。

団地内の一店舗を借り、大学と地域住民が連携してコミュニティ・カフェを運営し、さまざまな催し物(学び合い・カルチャー教室)を企画・実行。これにより居住学生以外にもボランティア活動の機会が開かれ、地域住民の主体的な活動の場としても利用されている。

(その他)

教職員と地域住民が協力して、これまで高島平団地パトロール、自然共生プロジェクト(養蜂プロジェクト、廃油回収プロジェクト)、FM放送や高島平ルネッサンスビデオ制作、書道教室等を実施。



誰もが希望のもてる  
「持続可能な都市社会・高島平」をめざして!



# 不登校等の課題を抱える子どもや家族を支援する取組

福岡県立大学「不登校・ひきこもりサポートセンター」

不登校やひきこもりに悩む子どもたちの社会的自立を目標にして、大学が有する様々な資源を活用し、専門的な支援を提供。学生に対する教育効果も期待。

## <活動概要>

平成19年9月に開設し、相談部門、連携サポート部門、情報発信・研修部門、教育・社会支援部門の事業を実施。福岡県全域から相談を受けており、子ども支援として、小・中・高校・適応指導教室等に学生を派遣、スタッフによる家庭訪問等を行っているほか、大学内にフリースクール（「キャンパススクール」）を開設。

### (1)キャンパススクール

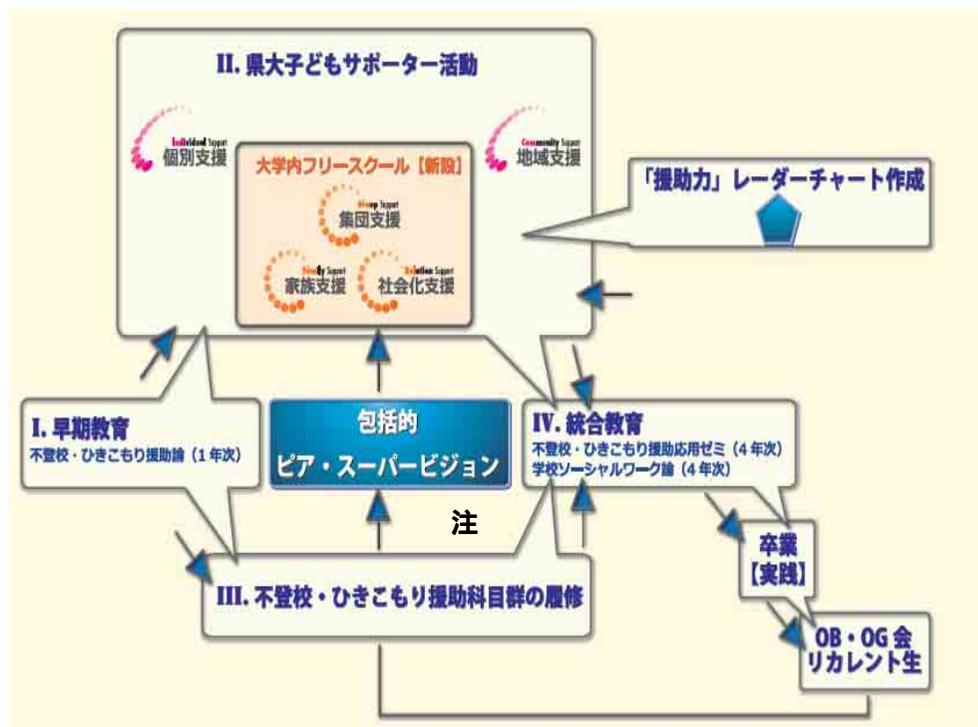
大学内で不登校・ひきこもりの子どもたちへの学習支援と心理的サポートを行うとともに、グループワークの実践により、学生のソーシャルスキルとコミュニケーション能力の向上を目指す教室を開設。

### (2)家庭支援

- ・家族交流会(保護者の自助グループ形成とその支援を行う)
- ・訪問サポート(ひきこもりの子どもと家族への家庭訪問支援を行う)

### (3)社会的自立

高校生や中途退学者の社会化支援  
(勤労体験や大学講義への体験受講を通じて、就労や進学等の進路決定に向けた意識付けを行うほか、社会に出てからの学び直しも視野に入れて活動)



注「包括的ピア・スーパービジョン」  
サポーターたちの経験知共有と互恵的学習のシステム



# 家庭支援による地域貢献の取組

昭和女子大学「NPO昭和による家庭支援・地域活性化への貢献」

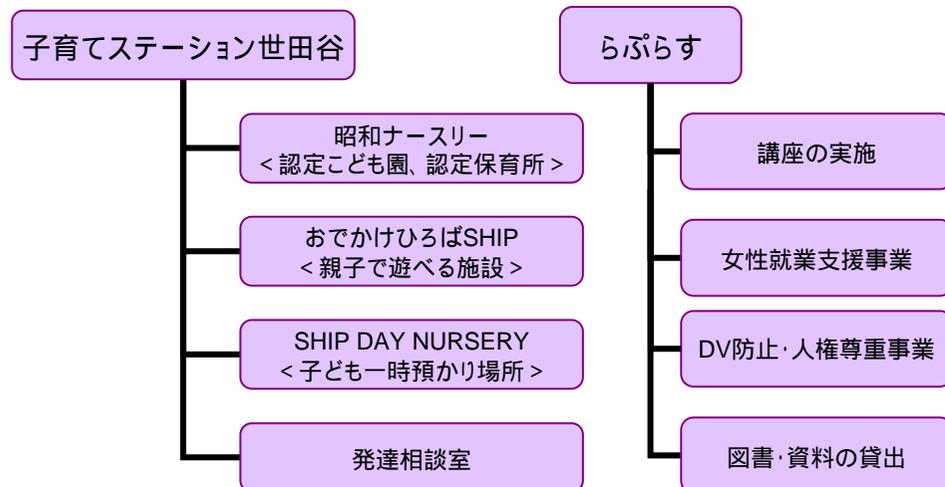
大学が設立したNPO法人(NPO昭和)により、地域で子育て中の両親や保育・教育関係者を中心とした市民を対象として、大学のノウハウを活かして保育・教育関係者の連携、社会福祉の増進などに寄与することで、より安心、安定した地域社会の形成を目指している。

## <事業の狙い>

NPO昭和と世田谷区が連携し各種事業を実施(地域の市民を対象として保育所運営、保育と子育てに関する支援、各種講座の開催、保育・教育関係者の連携、ボランティアに関する情報提供など)。それによって子供の健全な育成、人権の擁護、社会福祉の増進、職業人口の増進、社会教育及び男女共同参画の推進に寄与することで、地域に貢献することが目的。

## <主な事業>

NPO昭和は世田谷区と連携し、子育て支援多機能施設「子育てステーション世田谷」や世田谷区立男女共同参画センター「らぶらす」の運営などの取り組みを行っている。



## <活動内容>

NPO昭和の主な活動は次のとおり。

- ・保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- ・社会教育の推進を図る活動
- ・人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- ・男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- ・子どもの健全育成を図る活動
- ・職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- ・以上の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

また、NPO昭和では、「男女共同参画事業の一環として就職する・チャレンジする」ひとを応援するプログラムが実施されており、就職活動の支援、キャリアカウンセラーからの助言、インストラクターによるパソコン指導などの講座が開かれており、

社会活動への参加を希望する地域住民に対して情報提供と学習支援を実施。



# 遠隔地域との協働による地域づくり支援の取組

明治大学 「大学の所在地とは異なる地域との連携」

**広域連携による地域活性化**により、潜在的な社会参加へのニーズを掘り起こし、地域課題解決のためのプログラムを提供。

(目的)

高原野菜の栽培技術やその価値を孺恋村の内外に伝える人材の育成。

(地域が抱えていた課題)

伝統技術が継承されず地方産業が衰退。群馬県孺恋村では、先人の知恵が凝縮された伝統農法や技術を継承する人材が減少。基幹産業である農業の伝統技術のすばらしさを再認識し、村の財産を生かした活性化を図るため、伝統を伝承する指導者の養成が急務。

(課題の解決)

明治大学が提供する**体系的なプログラムの受講**により、村民自身が、高原野菜の栽培技術やその価値を継承する重要性に気付くとともに、**学びによって地域の課題が解決できることを学習。**

(カリキュラム) 平成19年11月～平成20年3月にかけて4段階のステップを踏む17回の講義、1回の成果報告会を実施。

第1段階 導入学習【出張講義】地域のよさに気づく

第2段階 能力開発【TV会議】孺恋ブランドの検討

第3段階 自立学習【ビデオレター】大学を拠点とした広域連携による農業ブランド展開

第4段階 模擬就労演習 まとめた知識・技術の執筆、講師、企画化について検討

(更なる展開)

**村民の受講生と明治大学関係者が地域活性化を目的に、NPO「好きです孺恋」を発足。**

(大学と地域の持続的連携)

平成20年12月14日に明治大学と孺恋村は「地域社会への貢献と人材育成」などを目的に協定を締結。

現在、商学部、農学部を中心に地域活性化イベントの企画や特産品のマーケティング等で、

村・NPO・大学(学生)が連携。年1回村民向けの講演会を開催している。



カリキュラム終了後に作成した教本



# 遠隔地域との協働による地域づくり支援の取組

## 法政大学「地域研究センター」

地域研究センターの設立を機に、所在市町村以外の自治体との連携・協力を推進。大学の知的資源を活用し、地域課題の解決に貢献。

### <センターの事業概要>

地域研究および大学が蓄積してきた知的資源を活用して地域の再生・発展を支援することを目的として、2003年に地域研究センターを設立。地域住民やNPOへの情報提供、地域経済の基盤である中小企業に対する支援や教育支援、自治体などの公的機関への協力・支援を実施。

### <原村との連携>

原村(長野県諏訪郡)は観光客数が最盛期の38万人から23万人程度に減少し観光の振興が課題。平成18年からは、法政大学と「事業協力協定」を締結し、「地域ブランド」や「持続可能な社会」をテーマに若者の視点で地域活性化のアイデアや地域づくりに関する提言を具体化する取り組みを進めている。

活動のまとめとして学生発表や地域住民らとのパネルディスカッションを含んだシンポジウムを実施し、その場での対話、提言は様々な形で実現化に至った。(都内イベントにおける「野菜ジュースバー」の出店など)

### 村のお宝発見プロジェクト

平成18年の夏休みに、法政大学の2つのゼミ生60人が参加して、「原村の輝く宝石発掘探検隊」を結成、レンタカーを借りて現地取材し、地域の資源を発掘する調査を実施。80件にのぼる取材活動の成果を、観光ガイド「はらむら物語り」という小冊子にまとめ、村のホームページ内に「はらむら物語り」のホームページを開設して情報を公開。お宝コンテンツが地図上にプロットしており、内容を簡単に検索することが可能。

### <各地との連携協力>

秋田県仙北市、石川県白山市、岐阜県飛騨市の3市を対象に、地域づくり、地域活性化を担う人材の育成を市民活動・企業活動の両面にわたり実施(「社会人学び直しプログラム」採択事業)した。地域コーディネータ、市民活動、企業活動の3つの領域にわたって講師やチュートリアルへの派遣、遠隔会議システムを現地に設置した3地点同時演習などを行った。

2011年7月には、自治体との事業協定では10番目となる七尾市との事業協力協定を締結。



原村の輝く宝石発掘探検隊

# 地域と共生するためのアウトリーチ型拠点整備の取組

## 和歌山大学「地域創造支援機構」

「地域を支え、地域に支えられる大学」として、また持続可能な社会の実現に寄与することを目指して創設。学内に存在する知的財産を、横断的かつ包括的に機能させることにより、地域課題解決へ責任ある参加と地域創造支援の役割を果たす。

### <プロジェクト概要>

自治体、農業者や研究機関、地元農家など、地域の多様な主体と大学が連携し、

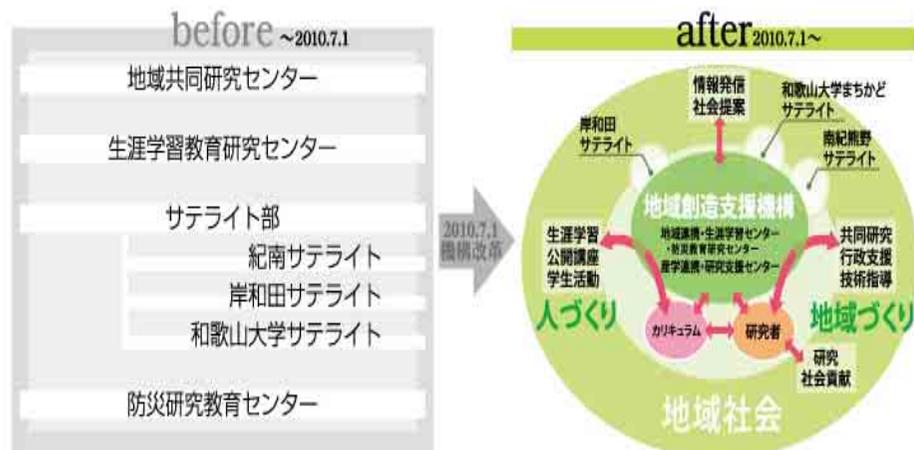
地域の知の拠点として

大学の知的財産は、地域財産

地域・産・学・官みなが共に成長する仕組みづくり

地域知の可能性を引き出す

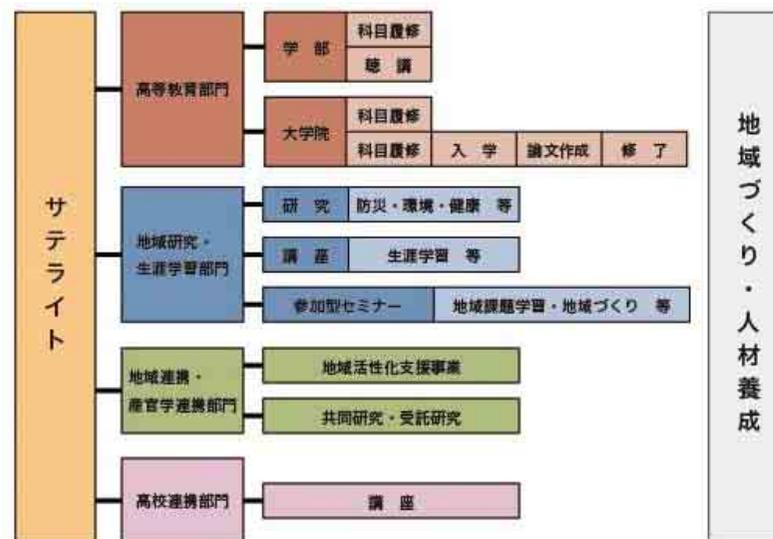
という4つの視点から地域社会と共に育つ、創造的な教育・研究、社会連携活動を目指す。



\* 防災研究教育センターは2011年4月に地域創造支援機構より独立

### <サテライト>

サテライトは、和歌山大学の研究・教育機能を活用して、地域づくりに貢献する大学の地域ステーションを目指す。紀南地域には南紀熊野サテライト、南大阪地域には岸和田サテライト、和歌山市内には和歌山大学まちかどサテライトの計3つが設置されており、地域住民に対して多様なニーズに合わせた高等教育の実施、生涯学習の機会を提供している。



# 行政との連携協定による生涯学習推進に向けた取組

## 香川大学「生涯学習政策アドバイザーの県庁派遣」

香川県における生涯学習の発展を目指し、県教育委員会と香川大学が生涯学習政策アドバイザーの派遣協定を締結。大学が生涯学習担当の専任教員を教育委員会に派遣し、県職員らに生涯学習や社会教育に関する専門的なアドバイスを行っている。

### < 協定背景 >

香川大学生涯学習教育センターは香川大学の地域貢献部門を担うセンターとして30年近い歴史を誇る。これまで、公開講座以外にも行政の研修講座の相談・各種委員会委員、社会教育調査の協力実施、NPOの支援等に関する助言等に加え、社会情勢等の変化に応じた生涯学習施策に関する適切なアドバイスを得るために香川大学生涯学習教育研究センターの専任教員を生涯学習政策アドバイザーとして県教育委員会事務局生涯学習課に派遣する取組みを実施。

### < 活動内容 >

生涯学習政策アドバイザーの主な活動は、次のとおり。

生涯学習関係職員、社会教育関係者及び学校教育関係者等の相談に応じること

香川県及び市町の生涯学習・社会教育に関する施策に対する助言を行うこと

生涯学習・社会教育の振興に資する研究調査を行うこと

具体的には、生涯学習・社会教育関係研修、女性のキャリア支援、地域活動支援講座等に関する各種プログラムの相談などを実施。

### < 県庁、大学の関係 >

香川大学が専任教員を派遣するだけでなく、香川県教育委員会事務局や図書館・博物館などの職員が香川大学の講義に参加し、学生に現場の生の声を伝えるなどといった取組みを行っている。



生涯学習政策アドバイザーの派遣



# 博物館の開放による地域・社会との共生に向けた取組

**大学博物館**は、学内の教育研究活動の支援はもとより、大学における知的情報発信の拠点として、各大学の特色や研究実績等の紹介・展示、講演会や体験プログラムの実施、他機関との連携など、様々な取組を通じて、社会貢献活動を行っている。

## 京都大学総合博物館 「社会連携」

### (博物館の概要)

平成9年4月に発足。250万点に及ぶ貴重な学術標本資料を収蔵。学術標本資料やそれを使った研究の重要性、維持管理の大切さなどを積極的に伝え、学内外の理解と広い支援を得ることを優先課題の一つとして、展示の一般公開オープン以前から、様々な情報発信の試みを実施。

### (コンセプト)

人材・設備・予算などが理想的に配された博物館を実現するためには、博物館の活動に対する理解と支援を広く市民から得ることを目的とした社会連携が必要。

京都大学総合博物館では、社会連携の要に生涯学習を据え、研究成果の蓄積およびそれにかかわった人的資源を活用して、研究者の顔が見える情報発信を実施。

### (主な取組)

研究者によるレクチャーシリーズ、企画展のガイドツアー、学習教室、週末子供博物館など。活動を通し、地域社会とのネットワークを構築。

### (事例)

**週末子ども博物館** 毎週土曜日に、京都大学に在籍する現役の学生・院生・元教職員たちによる学習教室を開催。

**夏休み学習教室** 毎年恒例のプログラムで小中学生を対象としたさまざまな体験プログラムが用意されている。

## 生涯学習を要とした社会連携

<p><b>研究者と楽しく学習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ジュニア・レクチャー</li> <li>●シニア・レクチャー</li> <li>●企画展・ガイドツアー</li> <li>●学習教室</li> <li>●週末子ども博物館・出張子ども博物館</li> <li>●科学探検士・ITの達人の府下への派遣</li> </ul>	<p><b>学習教材の開発</b></p> <p>ジュニア向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●三葉虫を調べよう</li> <li>●二枚貝を調べよう</li> <li>●生き物の歴史カレンダーをつくらう</li> </ul> <p>シニア向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●貝体新書</li> </ul>	<p><b>ネットワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●研究者・大学職員・大学生・大学院生・高校生</li> <li>●ICP+H&amp;A+斎藤麻紀+織谷仁美</li> <li>●京都府教育委員会</li> <li>●京都市教育委員会</li> <li>●京都市青少年科学センター</li> <li>●ユニアジア/JOY MUSEP</li> <li>●京都大学学術出版会</li> <li>●小学校教員グループ</li> <li>●京都大学記者クラブ</li> </ul>
--	--	--

### (話題の取組)「宇宙箱舟ワークショップ教材」

・「はやぶさ」帰還カプセル展 開催時(2011年2月)に、小・中学生、高校生を対象にしたワークショップを開催。「宇宙に引っ越すとしたらどんな動物を連れていく?」という質問を出し、地球環境、生態系や文化の多様性の意義などを考えた。

・同時に「答えが出ないが深く考えられる教材」を1500個つくって、小中高校などの学校に配布。京都市、京都府の多くの小中高校の授業で実践されており、活用について大きな広がりを見せている。



# 博物館の開放による地域・社会との共生に向けた取組

## 京都国際マンガミュージアム

### (設置目的)

京都市と京都精華大学が共同で漫画の収集・保管・展示及び漫画文化の調査研究を目的として設立。

### (旧校舎の改築)

江戸時代末期以降の漫画やアニメーション関連資料約30万点を所蔵。施設は廃校になった旧・龍池小学校の校舎を改築(一部増築)して利用。施設内は昭和初期の校舎の風合いを残し、「一般公開のミュージアムゾーン」、「京都精華大学の研究ゾーン」、「地元専有ゾーン」の3つの特色あるエリアに改修。

### (機能の多様化)

建物の一部には地元自治会の集会室や体育館があり、地域のコミュニティセンターになっている。館の運営は京都精華大学が担当。



### (ミュージアムのねらい)

京都精華大学はこのミュージアム運営において「資料の調査・研究」「博物館・図書館の展開」という2つの柱に加え、次の3つの機能充実を目標としている。

#### 1. 研究者・専門家の育成

研究プロジェクトへの参画、成果の発表、資料の公開、情報ネットワークの構築などによって若い研究者や学生達の研究を支援。クリエイターの養成、学芸員・司書技能の実習プログラム提供も実施。

#### 2. 新産業の創出

国内外のマンガコンテンツの社会的活用事例を収集し、その効果や課題を検証しながら、産業としてのマンガ活用モデルを研究・開発。博物館の施設・機能の新たな在り方も模索。

#### 3. 生涯学習・文化の創造

京都市が誘致して2008年に開催した「国際マンガサミット(国際漫画家大会)」など、マンガを通じた国際文化交流。地域社会に向けた各種講座。児童・小学生を対象にした学習プログラムなどを開発。

# 地域との共生に向けた関係づくりの取組

琉球大学「(大学リレー熟議)」

大学が地域との共生・協働関係を発展させる取組を支援するため、文部科学省が平成23年度から進めている、「地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議(詳細は別紙)」のトップバッター

【日時】平成23年6月12日(日)

【テーマ】イチャリバチャデー琉球大学からの発信

～ひとづくりとまちづくり その循環に大学と地域はどのように関わればいいのか～

【参加者】約100名(約8名×13グループ)

沖縄県、那覇市、琉球大学生・教職員、地元中学生、高校生、一般参加者、文部科学省等

地域と大学との関わりについて熟議



熟議

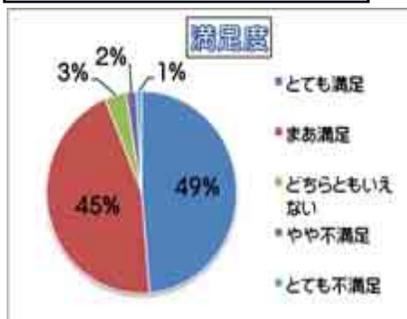
## 【主な課題&解決案】

- ・大学と地域のつながりが希薄化し、互いに情報が不足している。
- ・大学が地域の声(ニーズ)に積極的に耳を傾ける必要がある。大学や学生が地域を知るために、積極的に地域に出向くことで、地域経済の活性化や地域交流に貢献することができる。
- ・地域で働く人材の育成等に、大学だけでなく、地域の力を活用することも必要。
- ・「まちづくり」に子どもや若者を積極的に活用する(大学は学生にボランティア活動の単位化等の支援が必要)



## アンケート結果

熟議による高い効果が見られる



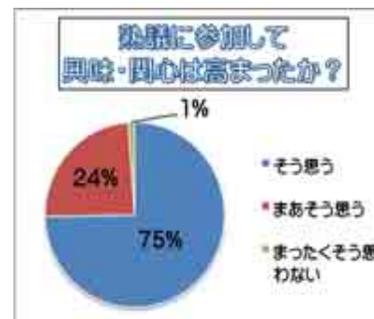
満足度: 94%



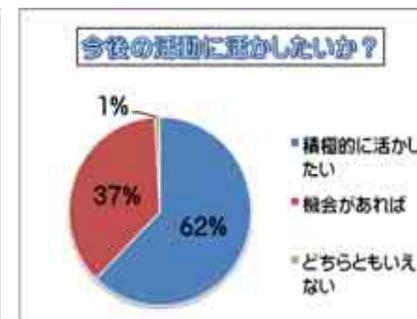
熟議参加前からの意見の変化: 77%



参考となるコメント(5個以上): 95%



地域や大学への興味・関心の高まり: 99%



今後の活動への活用意欲: 99%

この熟議をきっかけに、琉球大学では、生涯学習・地域づくり関係者のためのワークショップ講座の実施(9月)や、離島を多数抱える大学の特色に鑑み、八重山地区(石垣市等)においてリアル熟議の開催を予定(2月)。

# 地域との共生に向けた関係づくりの取組

## 三重大学「大学リレー熟議」

【日 時】平成23年7月16日(土)

【テーマ】対話と協働～未来に向けて～

(サブテーマ)A.教育:「確かな学力」と「豊かな人間性」を備えるための学校における方策づくり

B.就労:職場で求められる人になるために今すべきこと

C.地域:地域の人々と絆を深めるために私たちができること

【参加者】約100名(約8名×13グループ)

三重大学学生・教職員、学校教員、三重県、地元企業、一般参加者、文部科学省等

学生のキャリア教育の授業の一環で熟議



熟議

### 【主な課題&解決案】

- ・A. 教育: 「教員が十分に子どもと向き合えず、力が発揮できていない」 学校・家庭・地域の一層の連携・協力が必要
- ・B. 就労: 「コミュニケーション力が不足している」 卒業までに中長期的に社会体験活動を行うことが必要
- ・C. 地域: 「地域資源がありながら、県内外に十分認識されていない」 行政、地域などが一体となって積極的にPRすることが必要

## 三重大学「アカデミックフェア」

三重大学の教育・研究・社会実践の成果を、親しみやすく紹介し、体験する「知の祭典」。

学生による三重大学の紹介、学生、教職員による学習・研究発表、世の中で活躍中の方々を招いたキャリアシンポジウムなど、三重大学の「入り口から出口まで」を一望できるイベントとして毎年開催。

### 三重大学アカデミックフェア 2011

アカデミックフェアは、三重大学の教育・研究・社会実践の成果を、親しみやすく紹介し、体験する「知の祭典」です。学生による三重大学の紹介、学生、教職員による学習・研究発表、世の中で活躍中の方々を招いたキャリアシンポジウムなど、三重大学の「入り口から出口まで」を一望できるイベントです。お楽しみ品もたくさんあります。

日時: 2011年2月11日(土) 10:00~17:00

10:00~12:00 登録フェスタ  
キャリア実践発表会  
ポスターセッション1(各グループ10分)

12:00~13:00 三重大開校  
ポスターセッション2(各グループ10分)

13:00~15:30 キャリアフェスティバル2011  
キャリア実践発表会(各グループ10分)

15:30~17:00 フェアード

※学生による三重大学紹介ブースも開催しています。

会場: 三重大学三環ホール

主催: 三重大学  
共催: 三重大学教職員会  
実行委員会  
協賛機関: 経済産業センター  
アカデミックフェア実行委員会

TEL: 059-231-0800  
FAX: 059-231-0805



# (参考) 地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議

## 地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議

文部科学省では、大学が地域との共生・協働関係を発展させる取組を支援し、「地域と共生する大学づくり」に向けた意識の共有および機運の醸成を図る手法として、異なる立場の者が一体となって課題解決の方法等を考える場づくりとして、また、学生の学習の場としても有効である「**熟議**( )」の活用を推奨。

( )熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決・政策形成をしていくこと。

実施期間：平成23年度～平成24年度(予定)

